

令和 6 年度

事業者番号	0039	事業所番号	003901
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日本フェルト株式会社 埼玉工場		
事業所所在地	市区町村	鴻巣市	
	字・地番	原馬室88番地	
産業分類名(中分類)	11 繊維工業		
分類番号(中分類)	11		
事業活動の概要	事業内容	①紙、パルプ、スレート用、その他工業用フェルトの製造、加工 ②各種繊維製品の製造、加工 (従業員数) 334人 ※2024. 4. 1現在	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量(9,157 t-CO ₂)に対し、削減計画期間の平均削減率を40%以上(平均排出量: 5,500 t-CO ₂ 以下)とする。			
	その他ガス				
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	36,628	t-CO ₂	事業所区分 第2区分	
	削減目標量(計画期間合計)	9,157	t-CO ₂		

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	2,454	2,544	2,489	2,369	

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂	4,888	5,066	4,950	4,673	
前年度比 (%)	—	3.6	-2.3	-5.6	
その他ガス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メタン				
	一酸化二窒素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六フッ化イオウ				
三フッ化窒素					
温室効果ガスの合計	4,888	5,066	4,950	4,673	

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計画期間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源 CO ₂ 排出量原単位	7.4433	7.5306	7.6399	7.7547	
前年度比 (%)	—	1.2	1.5	1.5	
活動規模の指標	単位				
生産量	t/年	656.70	672.72	647.91	602.60

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>・令和2年度は前年度に比べて生産量が約31t(4.5%)減少した。このことが、CO₂排出量の39t(0.8%)低下の主な要因となっている。また、ここ数年生産量の低下傾向が続き生産効率が大きく低下しているため、CO₂排出量の低下割合は生産量の低下割合に比べて小さくなっている。</p> <p>・蒸気ボイラーを、従来5台(蒸発量2.0t/h)から4台(蒸発量2.5t/h)に更新した。台数は1台減となったが、合計の蒸発量は10t/hと変わらないため、CO₂排出量に対する大きな影響はない。</p>
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>設備増の内容 10馬力(暖房定格能力28kw)の空調機を3台増設。 3台合計で年間21t-CO₂(基準量の0.229%)</p> <p>要因分析 ・令和3年度は前年度に比べて生産量が約16t(2.4%)増加した。しかし、昨年度(特に下期)に、主要台の不調もしくは故障が多く、原料異常多発による中間検査を含めたマシン上での検査時間及び異物除去時間の増加、等の理由により生産性が大きく低下した。これを補うために休日出勤を行ったことで工場としての稼働日が増え空調やボイラーによるエネルギー消費量が増加し、結果としてエネルギー起源CO₂排出量原単位は増加してしまった。</p>
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有	<p>設備増の内容：太陽光発電設備(自家消費型 75kW) 2023.3導入。 令和4年度のCO₂排出量原単位は前年度比1.5%上昇した。これは生産量が25t(3.7%)減少したものの、CO₂排出量は116t(2.3%)の減少に留まったためである。CO₂排出量の減少幅が小さくなった主な原因として以下が挙げられる。</p> <p>1. 主力製造マシンの長期間の故障に伴う生産低下を補うため、複数マシンで休日も稼働させなければならなかった。これにより、動力向け電気使用量が29kWh(14.1%)増加した。 ※休日出勤1日増、マシン故障防止策を策定済</p> <p>2. 気候温暖化の影響で夏場(7~9月)の平均気温(熊谷气象台発表)が1.3℃上昇した。上記1と2の理由から、空調向け電力使用量が113kWh(22.6%)増加。</p>
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無	<p>令和5年度のCO₂排出量原単位は前年度比1.5%上昇した。これは生産量が45t(7.0%)減少したものの、CO₂排出量は277t(5.6%)の減少に留まったためである。主な原因として以下が挙げられる。</p> <p>1. 前年度比、休日出勤や残業は減るものの、主力製造マシンの保守点検や夜勤勤務者の減少に伴うマシン稼働制限による生産低下を補うため、休日出勤で対応した。※休日出勤30日</p> <p>2. 気候温暖化の影響で夏場(7~9月)の平均気温(熊谷气象台発表)が1.9℃上昇したことで、この3ヶ月間の空調向け電力使用量が94kWh(15.3%)増加した。以上の事から、動力向け電力やボイラー向け都市ガスの使用量は幅は小さいものの減少が見られる一方、空調向け電力使用量が年間58kWh(4.2%)増加した。</p>
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	9,157	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位：t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	9,157	9,157	9,157	9,157	9,157	45,785
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	
	排出上限量 (C = Σ A-D)						36,628
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))						9,157
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	4,888	5,066	4,950	4,673		19,577
	削減率 (F = (A - E) / A)	46.62%	44.68%	45.94%	48.97%		—
	排出削減量 (G = A - E)	4,269	4,091	4,207	4,484		17,051
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施	未実施		